

「ケーブルカー遊び(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

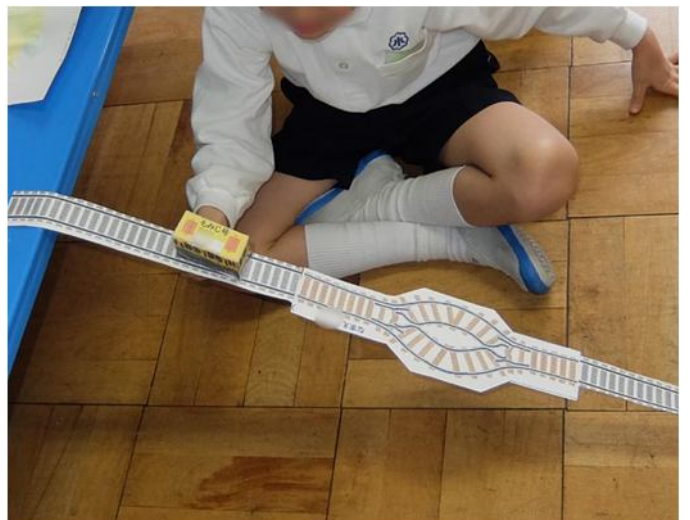
できあがったケーブルカー車両で、子どもたちはさっそく遊んでいた。磁石を車両の内部に入れた子どもは、まず教室のホワイトボードや自分の机にくっつけて遊んでいた。「わぁー、先生、ホワイトボードについたよー！」本来はつかないはずの「紙の箱」が、あちこちにくっつくのが、面白くて仕方のないのだ。



次に、線路の裏側から、ケーブルカーを動かす子どもが見られた。この子どもは「先生、見て見て、ちゃんとカーブを上手に進めたよ。」この「簡単な成功」が子どもにとっては「大成功」なのだ。教師は、その「嬉しさ」を共有してあげなくてはならない。



「延長用線路」も使って楽しむ子どもも多かった。トンネルがあるのが面白い。実際の高尾山ケーブルカーにも、山頂駅近くにトンネルがある。それを覚えていたのだろう。裏側から磁石で動かすので、トンネルも楽に通過できるのだ。



車両の内部に、棒磁石を入れた子どもは、回転せずにスムーズに走行していた。このあと、友達と二人組で、楽しんでいった。「先生、見て見て、ほら、途中でちゃんとすれ違えるんだよ！」・・・子どもたちは、休み時間になっても、ずっと楽しんでいった。